

つてしまったので。テレビや新聞で苦しんで
いる人々を目にして、私は、平和とはなん
なのかもう一度考えてみました。「平和」の
捉え方は、人それぞれです。地雷を踏まない
ことが平和？飲み水があることが平和？美味
しいものを食べて、健康でいられることが平
和？安定した収入を得ることが平和？平和は
人の数だけあります。私は、自分がもってい
る「平和」の意味を人に合わせて生きていく
のではなく、一人一人が互いを認め合い、尊
重し合うことが、一番重要なのではないかと
思います。私は昔、第二次世界大戦当時八才
だった祖父に話を聞いたことがあります。祖
父が住んでいた場所は、空襲こそ受けなかつ
たものの、毎日のように空にB-29がとんでい
るような生活を送っていました。青空にぎら
ぎらと光る戦闘機がとんでいる、その異様な
光景は、今も忘れられないと話していました
戦争の影響は大きいもので、食べ物も貧しく
一時は、いもを食べ続けるような生活をして

いたときもあったそうです。「平和」の多様性を認め合うことは、前述の通り、大切であり社会平和への大きな一歩となります。しかし、認める認めないの、一つ手前の大前提として、「平和の多様性」について、私はこれから誰しもが考えていかなければいけないと思います。裕福な国の子供は、あたたかい布団で洗剤のいい香りにつつまれて眠るのが平和、銃撃戦を繰り広げた後の少しこげたおいにつつまれて眠るのが平和。こんな大きな違いがある世界を「平和」と呼べるのでしょうか。ウクライナの人々がこんなにも苦しんでいるのに、どこの国も一向に大きな行動に出ない状況を、ウクライナのゼレンスキー大統領は「見て見ぬふりをした平和」と表しました。私はその通りだと思いました。平和の認識が人によって違う。「平和」など、平和とは呼べないと思います。みんなが、平等に平和に生きていける世界。それを作っていくことは、

